

仲間を想う心を込めて「ご安全に」、年末年始を無事故無災害で！

ご安全に。加盟組合・構成組織、県本部・県センターの皆さんの連日のご奮闘に心より敬意を表します。

第9期もスタートして3カ月が経過しました。この間、第9期運動方針に則り、各組織におかれましては鋭意その実現に向けてご尽力いただいているところであります。

ご承知の通り、基幹労連第9期運動を支える基軸は、「重大災害の撲滅に向けた無災害職場の確立」であります。言うまでもなく安全衛生活動の徹底は、私たち労働組合の諸活動の一丁目一番地であります。その推進にあたっては、各労使が役割と責任を再認識し、「死亡災害発生の連鎖」を断ち切り、真の「安全・安心な無災害職場」の構築をめざす活動の展開が重要であります。

この活動を全ての労使が一丸となって展開しているにもかかわらず、「死亡災害の連鎖」は未だ断ち切れていません。基幹労連の加盟組合・構成組織の職場では、この一年、今日現在（12/19・第一報含む）で21件21人の働く仲間が、あってはならない労働災害で、尊い命をその職場で失っています。誠に残念であり、突如として残されたご遺族のことを考えると悲しみが止みません。

文化人類学の世界では、「5-15-50-150-500の法則」というものがあります。

これは一人の人間を取り巻く人の数を平均的にあらわしたのですが、「5」は家族や親友など精神的支えや困った時の助けを求められる相手の数、「15」はその人が亡くなれば大きな悲しみを経験する相手の数、「50」は比較的頻繁に関係を持つ相手の数等、とのことです。一人の人が亡くなれば5人の親しい方々が苦しみ、そして心に傷を負い、15人の方々が大きな悲しみの淵に立たされます。一人ひとりの大切な命は、その人に関係する多くの方々の大切な宝物です。

自らの職業生活を営む職場において、労働災害で落命することは絶対にあってはならず多くの方々に悲しませることがあってはなりません。

今こそ、「死亡災害の連鎖」を断ち切り、「重大災害の撲滅に向けた無災害職場の確立」を全組織一丸となって進めてまいりましょう。

基幹労連は、結成以降2004年から2014年の11年間に発生した重大災害の事例をとりまとめ、貴重な教訓として昨年11月に冊子として発行、配布しました。また、この貴重な教訓をCD-ROMに収め、本年6月に改めて全組織に配布しております。是非、この教訓を労使で共有化していただき、類似災害の撲滅と無災害職場の構築に向けて、さらなる取り組みの強化と徹底をお願いします。

挨拶は「ご安全に」、仲間の顔を見て「ご安全に」、帰宅する際も「ご安全に」。

自分自身の安全確認はもとより、仲間の安全を想い、心を込めて「ご安全に」。

2017年12月19日
日本基幹産業労働組合連合会
事務局長 弥久末 顕